

TRADITIONAL CRAFTSMANSHIP ASSOCIATION OF OTA, TOKYO

大田区 伝統工芸発展の会



発行: 一般社団法人 大田区伝統工芸発展の会
撮影・編集・デザイン協力: 唐和家族



Instagram



ホームページ



Twitter



Facebook



TRADITIONAL CRAFTSMANSHIP
ASSOCIATION OF OTA, TOKYO



未来の伝統を、今つくる

「伝統工芸」は過去ではなく、
現在の日常生活であり、未来の暮らしへの提案。

大田区伝統工芸発展の会は
永年に積み重ねた先人の知恵を受け継ぎ、
根底にある日本の「用の美」を伝えていきます。

既存の技術を守るだけでなく、
新しい分野も取り入れ、
未来の 100 年に向けて伝統工芸を育てていきます。

ごあいさつ

Greeting

いつも「大田区伝統工芸発展の会」にご支援、ご協力いただきありがとうございます。
でございます。

2012 年 6 月 30 日（平成 24 年）に発足し、皆様のおかげで満 10 年を迎えることができました。

2018 年（平成 30 年）12 月 3 日に一般社団法人登録し、会員一同大田区の
地域活動・文化活動や、小学校の総合学習などに参加させていただいて
おります。

年ごとに会員も増加し現在 21 名で、それぞれの分野で活躍されております。

また、2018 年度より『大田区伝統工芸士』の認定制度が始まり 11 名の会員
が松原忠義大田区長より授与されております。

当会は発足当初から、日本人の感性に潜在する細やかな和の手仕事である
伝統工芸を一步ずつ微力ではありますが継承出来るよう進め、現代に必要
とされる新たな伝統工芸を構築出来るよう精進・努力しております。

今後とも「大田区伝統工芸発展の会」を見守っていただき、ご支援いただ
けますよう宜しくお願い申し上げます。

一般社団法人 大田区伝統工芸発展の会
会長 吉澤 均



大田区の工芸マップ

Map of crafts in Ota



会員一覧

Members

※五十音順 ※QRコードから公式サイトのご案内詳細ページをご覧ください



大田区伝統工芸士®として認定されている会員

※伝統工芸に対する興味・関心を喚起するため、
大田区内で活躍している伝統工芸士を認定する制度です。

三味線製作

三味線を作る職人、三絃師。限界を追求して培った技術で作った三味線は、人間国宝にも愛用されています。三味線は天然の皮と木材で作られ、一点一点厚さや固さが不均一なため、細かな調整によって音色や響きが変わる、とても繊細な楽器です。特に皮張りは重要な工程で、破れる寸前まで伸ばすことでよい音が出ますが、薄くすると破れやすく熟練の技術が必要となります。

地元大田区で子供向けの無料の三味線教室を開催して、三味線の普及活動にも力を入れています。



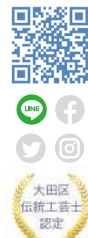
伊東 孝夫 いとう たかお
三絃師



03-3778-3318 / 090-9855-6946



〒143-0023
東京都大田区山王 3-18-10



小野恒夫 おの つねお

氷彫刻・フルーツ&ソーパークーピング

✉ koubou.ichie@gmail.com

☎ 03-3729-3139 / 090-8503-5931

🏠 〒145-0064
東京都大田区上池台 3-38-4-202



氷彫刻

氷彫刻は飾る場所の作品によって、大きな違いが出ます。

この作品は常広市の冬季大会(2月)で制作、夜は-18℃の条件で彫ったもので、これを東京のパーティ会場に飾る事は出来ません。それはセット時間、パーティ時間で最低3.5時間は作品として見せる事が出来なければならないからです。お客様が宴席をお願いしたホテル、レストラン等から依頼を受け氷彫刻を制作、納品しているので、全てに於いて安全が基本となり宴席が終了した時に、お客様をはじめ関わった方に満足していただく作品を制作する事が目標です。



加藤照代 かとう てるよ

漆工芸 (修理・金継・仕覆)

✉ woo.t@mbf.nifty.com

☎ 03-5700-0551 / 090-4053-5799

🏠 〒146-0082
東京都大田区池上 5-26-5



漆工芸

漆はウルシの木の幹から採取した樹液塗料、接着剤に使われています。日本では縄文時代から活用し、木、布、紙などに漆を塗る、金銀粉を使った蒔絵など、多様な技法が発展してきました。漆器の特性の堅牢性、耐久性や多様な加飾により、毎日使う汁椀やお祝い事で用いられる重箱などの漆器から、各時代を代表する建物や仏像、芸術品まで幅広く用いられます。現代でも日本の生活と文化を支えています。



黒川朋子 くろかわ ともこ
縹ざし作家

✉ rozashi1222@gmail.com
☎ 03-3756-1665 / 090-7008-5620
🏠 〒146-0092 東京都大田区下丸子
4-27-4 パークハウス多摩川 301

縹ざし

縹ざしとは、日本刺繍の一種で、およそ 1200 年の歴史があります。「縹」と呼ばれる方眼状に隙間のある着物生地のマス目を利用して、規則的に糸を渡しながら布を絹糸で埋めて図案を構成する技法です。古くは奈良時代に中国より伝来し、平安時代には公家や武家の子女の道楽として、江戸時代には公卿たちの趣味として流行し、公卿縹刺しといわれ珍重されました。室町時代や江戸時代の繡仏（しゅうぶつ）にもこの技法が使われています。現代では帯や着物のほかに、ハンドバッグや財布などの実用品に用いられています。



櫻井教司 さくらい きょうじ
紋章上絵師

✉ kyouji.sakurai1119@icloud.com
☎ 090-1431-1528
🏠 〒143-0025 東京都大田区南馬込 3-16-8



紋章上絵

着物や装束に紋章を手描きする技術です。一言に「紋章上絵」と言っても、その工程は「下絵」「型彫り」「抜染」「摺り込み」「蒸し」「線描き」などすべての工程を一人で行うため、習得すべき技術は多岐にわたります。「分廻し」（ぶんまわし）と呼ばれる、竹のコンパスのような道具を使って左右対称の型紙をつくり、「石持ち」（こくもち）と呼ばれる紋のための小さなスペースに、染色技術を使って輪郭を染め、その後「面相筆」を使って細いシベを描き入れていきます。



小宮里江子 こみや りえこ
ボールペン花文様装飾工芸作家
✉ rieco@hanamonyou.com
☎ 090-2314-0029

ボールペン花文様装飾工芸

使用するのは、ボールペン 1 本。定規やコンパス、型等を使用せずに、「フリーハンド」で、均等な花の模様を書き上げる、新しい工芸です。紙に書き上げるだけでなく、布、革、プラスチック、アクリル等にも書き上げております。また、平面だけではなく、球体や凹凸のある物にも書き上げる事が可能ですので、様々な物に書き上げる事が出来ます。

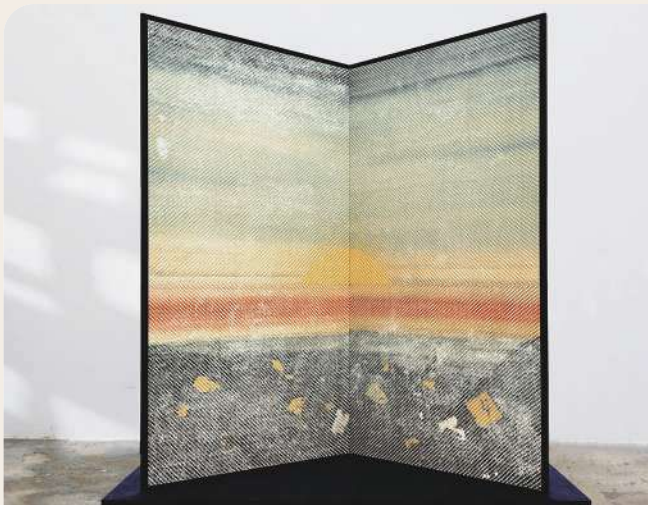


白駒秀雄 しろこま ひでお
プラスチック成型加工・3D 光造形・
レーザー加工・UV プリント加工
✉ h@shirokoma-ss.com
☎ 03-5482-2855
🏠 〒146-0083 東京都大田区千鳥 2-9-2



レーザー加工

プラスチック成型加工にて汎用樹脂からスーパーエンブラまで対応し、主に精密コネクタなどの製品を製造しています。レーザー彫刻・UV プリント・3D プリントを使用し、和の職人とのコラボレーションも積極的に展開しています。和風ランプシェードのカッティングや、樹脂以外の和素材（木、竹、畳、革）へのプリント、木札やサインボードのオーダー制作も、デザイン・設計から行っています。



春原敏雄 すのはら としお

表具師

✉ suno@world.ocn.ne.jp

☎ 03-3736-9863 / 090-1259-0611

🏠 〒146-0094
東京都大田区東矢口 3-21-5

表具

江戸表具は、中国から日本へ将来され、経巻を装丁したことが始まりとされます。礼拝用の仏画の装飾としての巻物、掛軸が原型となり、中世後期の茶道の隆盛や建築様式の移り変わりとも深く関わりながら、日本独自のものとなっていきました。間仕切りの屏風などが防寒用に工夫され、後に襖になったといわれます。網代表具の第一人者としても活動を続け、表具・経師の伝統を発展させるためにも革新的な表現を常に探求しています。



横笛制作

日本全国の横笛を製作している工房です。篠笛・能管・龍笛・高麗笛・神楽笛、北はねぶた笛、南は琉球笛等、日本全国祭りの数だけ笛がある、と言いたいほど各地の伝統芸能を支えている笛達が沢山存在します。各種類の笛はそれぞれ調律があり音色があります。お能や歌舞伎に使う能管、雅楽に使う龍笛、祭り囃子など日本古来の笛製作、現代音楽に使う洋楽調（ドレミ管）はオーケストラや和楽器バンドに使われています。笛体験も可能。



田中 康友 たなか やすとも

和楽器製造業

✉ shinobue_wako@yahoo.co.jp

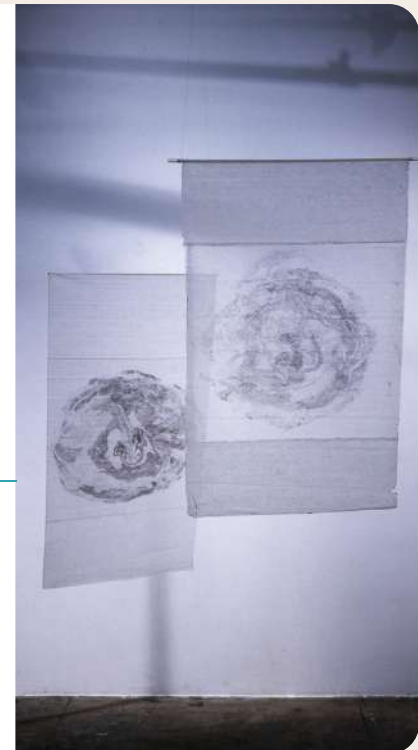
☎ 080-2045-8150

🏠 〒143-0024
東京都大田区中央 7-14-2



墨流し

墨流しは中国の流沙箋が伝わったとされますが、明確な時期は不明です。古今和歌集に墨流しを詠んだ歌があることから、9世紀頃には日本に伝わっていた事がわかります。平安期の西本願寺三十六人家集や扇面法華経冊子の墨流し料紙は、伸びやかな線が特徴であり、鎌倉期には、柾目肌のような高密度の形が増え、江戸期には山路文様のような越前墨流しが発祥します。水面に墨を滴下し自然の動きを可視化する墨流しは、その変遷を辿り新しい表現を生み出す事ができます。



中井 慎吾 なかい しんご

装飾料紙、墨流し作家

✉ info@inkstone-painting.com

☎ 090-4184-6186

🏠 〒146-0082
東京都大田区池上 3-29-16 寿屋 1F



中村 恵子 なかむら けいこ

日本刺繍

✉ kei.na.albi@com.zaq.ne.jp

☎ 046-866-2407 / 080-1191-5909

🏠 〒237-0061 神奈川県横須賀市夏島町
3番地シティ追浜 L-ウィング 1509



日本刺繍

日本刺繍は 1700 年も続いてきた日本独自の刺繍です。絹地に絹の刺繍糸（釜糸）、金糸、銀糸を用い、両手で針を上下に出し入れして刺します。刺繍糸には自分で撚りを掛けます。図案に合わせ糸の太さ、撚りの強さ、色（欲しい色を数色の糸を混ぜ作る）、繡い方を考えながら刺します。●現代手工芸作家協会理事 ●NJ クラフトアート役員 ●よみうり文化センター講師 静花流日本刺繍研究会主宰 ●大河ドラマ「女城主直虎」刺繍指導



中山健 なかやま たけし
和裁技能士

✉ nakayamawasai@gmail.com

☎ 03-3726-3618

🏠 〒145-0073
東京都大田区北嶺町 41-9



和裁

和服の裁断は、布幅の余分を立ち落とさないで縫い込みとして仕立てるので、縫い目をほいどいて並べると裁断前の長方形の布に戻すことができます。長方形の布を縫い合わせて、平面的に構成し、ゆとりある寸法に仕立てることで、着付けによって立体的な形を整えることができます。生地を直線に断つので型紙などは使用せず、裁断の時に柄の位置に留意して美しさの効果を最大限に引き出します。洗い張りや染め直しをすることもできます。



和裁

約 1300 年前の奈良時代から着物は日本の民族衣装であり、裁縫は平安朝には庶民の仕事として受け継がれ発達しました。江戸時代には小袖の発達によって、その縫製技術にはより精巧なものへの進化し、現代にもほとんど変わらず受け継がれています。和裁は約 13m の一枚の反物を裁断し、全て手縫いで仕立てあげていきますが、針と糸と手足・全身を使って一針一針縫い進め、ようやく一枚の着物が完成します。一枚の着物を縫いあげるのに一万針とも言われています。



納富美津英 のうみ みつえ
和裁技能士

✉ noutomikimono365@gmail.com

☎ 090-7212-6930

🏠 〒144-0043
東京都大田区羽田 5-13-17



橋本今日子 はしもと きょうこ
紙工芸 (パチメントクラフト)

✉ patiosoleadok@gmail.com

☎ 03-6410-3752 / 090-4866-4866

🏠 〒146-0081
東京都大田区仲池上 2-15-2



紙工芸 (パチメントクラフト)

パチメントクラフトとは厚手のトレーシングペーパーに、専用の道具で図案を写し取り、浮彫、穴あけ、カットをしながらカードや写真フレーム、ランプシェードなどの小物から、結婚式のウェルカムボードや記念日やお祝いの額などを作りあげる紙の伝統工芸です。

作品販売、オーダーメイド品の受注や、ご自身でお作りになりたい方のためのレッスンなどもございます。



早水瑞枝 はやみ みずえ
布象がん作家

✉ mizue883@docomo.ne.jp

☎ 090-5586-8618

🏠 〒146-0085 東京都大田区久が原
5-27-1 ヒルズ久が原 610



布象がん

布象がんとは布を刀でくり抜いてはめ込み様々な模様の布を組み合わせる 1 枚の絵画に仕上げる画法。掛け軸などに用いられる表装の技法をベースに独自の布象がんという言葉を使って作る新しい布絵です。世界各地を回って集めた思い出の布を組み合わせるエキゾチックな世界感を表現しています。



町田久美子 まちだ くみこ

東京手描友禅作家

✉ koubou.q@gmail.com

☎ 03-3772-8357 / 090-1771-5538

🏠 〒143-0027
東京都大田区中馬込 2-5-10

東京手描友禅

友禅染は、江戸時代（1684-1688）に京都の扇面絵師、宮崎友禅斎により創始されたと伝えられています。東京手描友禅は江戸幕府を開設により絵師や染師が江戸に移り住むようになり、各地方の各種技術・技法の交流がはじまり伝承され、江戸特有の文化にも育まれて、より洗練されたものづくりがされるようになりました。華やかさを抑えて単彩のなかにも秘められた美しさと溢れる気品は、江戸の粋を現代に伝えています。

注文家具製作・木工

ナラ、タモ、樺など国産広葉樹の無垢材を用いて、個人住宅の一枚板のテーブルや椅子などの注文家具や、保育園等の用具遊具から箸置き、弁当箱、スマホスタンドなどの小物まで、「用の美」にこだわった木の仕事をしています。木と木の接合は金属を使わず、二枚ほぞ継ぎや吸い付き蟻巣（ありざん）などの伝統技法で加工を行っています。木の命、歴史を感じていただけるような仕事をしたいと思っています。木の仕事何でもご相談ください。



松浦和美 まつうら かずみ

注文家具製作・木工

✉ kazumomo.kobo@gmail.com

☎ 080-5388-9316 (03-5700-5147)

🏠 〒144-0051
東京都大田区西蒲田 3-18-12



宮崎正明 みやざき まさあき

伊勢型紙彫刻士

✉ masa33027@gmail.com

☎ 080-5431-3515

🏠 〒232-0054 神奈川県横浜市南区
大橋町 2-27-2-401



伊勢型紙

三重県鈴鹿市で生産される染色用の型紙を「伊勢型紙」といい、着物や浴衣などの布地に柄を染めるために使用します。使用する紙は、和紙を柿渋で3枚貼り合わせ、天日で干し、室で燻したのち、また渋を塗り、干して地紙を作ります。彫刻技法は突彫り、錐彫り、道具彫り、縞彫りの技法があり、職人はそれぞれに得意な技法で型紙を彫ります。型紙の起源は諸説ありますが、平安時代とも言われています。



柳井博 やない ひろし

畳刺

✉ e.tatami@gmail.com

☎ 03-3751-6652 / 090-3500-0210

🏠 〒146-0082
東京都大田区池上 6-11-26



畳刺

畳は 1300 年前には寝具として用いられており、日本固有の敷物として長い歴史を刻んできました。貴族や武家に権力の象徴として重用された時代を経て、庶民にも親しまれるようになり、手入れをしながら長く使えるよう「表返し」や「表替え」などの知恵も生まれました。天然の脱炭素材ともいわれるワラ材は、最終的には堆肥として土に還せて環境問題にも優しい代物です。伝統的な技法を継承する三代目畳刺しとして、手縫いならではの良さを現代に伝えていきます。



仏像

佛師は、仏教伝来により千年以上の歴史と共に歩んできました。

如来、菩薩、明王、天部、祖師羅漢といった様々な像に合わせて、素材を的確に吟味し、その木目、木割を最大限に生かして制作します。

また現在、彫像と文化財修復は、それぞれ高い専門性が必要とされる為、分業化の傾向がみられるなか、経験に基づいた専門的知識と的確な技術を持ち、多くの文化財の維持保存にも寄与しています。



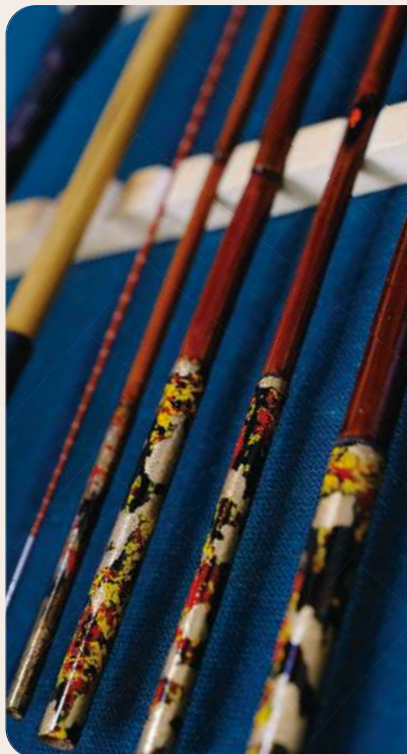
山本海老和 やまもと えびわ

佛師

✉ busshi.yamamotoebiwa@gmail.com

☎ 03-3727-1122 / 090-8819-2216

🏠 〒145-0063
東京都大田区南千束 3-28-5



和竿

和竿は国産の竹素材を用い、絹糸を巻き、漆塗りを施し機能的かつ美的な装飾を兼ね備えた日本独自の釣竿です。自然由来の素材を活用した釣りのスタイルは竹ならではの釣り味で、和竿独特な魅力と言えます。

地域によりいくつかの種類があり、江戸和竿は江戸中期に始まり江戸前で釣れる多くの魚種・釣法に特化した多種多様な竿が作られています。装飾も多く、遊び心を充ててくれます。横浜竿は明治時代初期に横浜本牧の漁師が作った堅牢で機能を兼ね備えた実用重視な作りで現在の釣り船で用いる釣り竿の元祖とも言える竿です。

現在なお和竿はこだわりを持った釣り師の逸品として、脈脈と愛され親しまれております。



吉澤均 よしざわ ひとし

和竿師

✉ hitoshi3641091@gmail.com

☎ 03-3742-1884 / 080-1096-2252

🏠 〒144-0035
東京都大田区南蒲田 3-15-7



本阿彌光洲

ほんあみ こうしゅう

名誉会員



美術刀剣研磨

1939年 東京都に生まれる

1962年 國學院大學文学部史学科卒業同年、父・本阿彌日洲（人間国宝）に師事し 光意系本阿彌家 18代を継承

※本阿彌家の分家である本阿彌光意（1604年没）の系統を継ぐ

1971年 研磨技術等発表会（刀剣研磨・外装技術発表会）無鑑査

2000年 美術刀剣研磨技術保存会会長に就任

2008年 東京都指定無形文化財（工芸技術）「日本刀研磨技術」の保持者に指定

2009年 一般財団法人日本刀文化振興協会理事に就任

2010年 公益財団法人日本刀文化振興協会理事長に就任

2014年 重要無形文化財保持者（人間国宝）認定

2016（平成28）年 春の叙勲で旭日小綬章受章



金澤翔子

かなざわ しょうこ

名誉会員

書道家

1985（昭和60）年6月12日東京都目黒区に生まれる。

5歳から母の師事で書を始める。20歳で銀座書廊で初個展。その後 建長寺、建仁寺、東大寺、中尊寺、延暦寺、円覚寺、薬師寺などで個展や奉納揮毫を行う。

厳島神社、熊野本宮大社、三輪明神大神神社、太宰府天満宮、春日大社などで奉納揮毫や個展を行う。福岡県立美術館、愛媛県立美術館などで個展や揮毫を行う。

伊勢神宮に奉納。福島や銀座に「金澤翔子美術館」を開設。27歳、NHK大河ドラマ「平清盛」揮毫。28歳、国体の開会式で揮毫、紺綬褒章受賞。天皇の御製を揮毫。30歳、国連本部でスピーチ。ニューヨーク・チェコなどで個展開催。日本福祉大学客員准教授。「別冊太陽」平凡社から発刊。スペシャルサポート大使。

2022年7月7日大田区久が原に「画廊・翔子」オープン。

サポート会員

川田典子 かわだのりこ

坂内英之 さかうち ひでゆき

櫻井美紀 さくらい みき

田中千枝 たなかちえ

唐和家族 とうわかぞく

松原謙三 まつばら けんぞう

大田区伝統工芸発展の会は会員を募集しております

会員募集

大田区で活動している工芸の職人・作家の方を募集しています。伝統工芸品目分野だけでなく、手しごとやアートワークを行う作家の方も歓迎いたします。各種イベントへの出展・実演・販売などか可能です。

サポート会員募集

大田区伝統工芸発展の会は、会の趣旨に賛同し寄与・協力および援助していただける団体、法人、個人を募集しています。

詳しくは事務局小野まで。✉ koubou.ichie@gmail.com ☎ 090-8503-5931

活動内容

Activities

大田区伝統工芸発展の会は、2012年の発足以来、大田区の地域活動・文化活動に参加しながら、「おおたの手しごと」の文化継承のための活動を行っている団体です。



イベント

「大田区伝統工芸展」「おおたの文化フェア in グランデュオ」「大田区子どもガーデンパーティー」「池上祭」などのイベントで数多く実演やワークショップを実施し伝統工芸やアートワークを身近に感じてもらう活動を行う。



教育

多くの大田区内小学校の総合学習で、伝統工芸の体験学習を行う。

【区立小学校授業協力】

糺谷小学校、中萩中小学校、出雲小学校など



認定制度

2018年に「大田区伝統工芸士認定制度」が創設、2022年現在 11名会員が大田区伝統工芸士として認定。

一般社団法人 大田区伝統工芸発展の会の

10年のあゆみ

History

2012年 6月 大田区内における伝統工芸の発展、技術継承を目的とし、任意団体として「大田区伝統工芸発展の会」が発足。初代会長：伊東孝夫氏。
(平成 24 年) 初期メンバー：伊東、春原、吉澤、高梨、畑元、柳井（計 6 名）

12月 当会会員の春原敏雄氏が厚生労働省より「現代の名工」を授与される。

2013年 4月 ・大田区教育委員会教育長へ「社会教育関係団体」で登録。
(平成 25 年) ・大田区地域振興課区民協働へ「大田区民活動情報サイト団体」で登録

10月 「おおた商い・観光展」にてグランプリ受賞（グッズ・サービス部門）

2016年 9月 東京都伝統工芸技術保存会（都連）に正式加盟。
(平成 28 年)

2018年 2月 「（第一回）大田区伝統工芸士認定証」が本阿弥光洲（美術刀剣研磨）、伊東孝夫（三味線）、春原敏雄（江戸表具）、吉澤均（江戸和竿）、故・宮崎通子（伝統工芸日本刺繍作家）の 5 名に松原忠義大田区長より授与。
(平成 30 年)

5月 ・春原敏雄が会長に就任。
・春原敏雄会長が「黄綬褒章」受賞。平成天皇陛下に拝謁。

12月 一般社団法人化。
「一般社団法人大田区伝統工芸発展の会」として法務局にて正式認可。

2019年 5月 「（第二回）大田区伝統工芸士認定証」が町田久美子（東京手描友禅染作家）に松原忠義大田区長より授与。
(平成 31 年・令和元年)

11月 「（第一回）大田区伝統工芸展」を区民プラザにて初主催。
東京都、大田区の後援。

2020年 2月 「（第三回）大田区伝統工芸士認定証」が黒川朋子（紹ざし）、中山健（和裁）2 名に松原忠義大田区長より授与。
(令和 2 年)

12月 「（第四回）大田区伝統工芸士認定証」が小野恒夫（カービング作家）、宮崎正明（江戸型紙）、田中康友（篠笛作家）の 3 名に松原忠義大田区長より授与。

2022年 5月 吉澤均が会長に就任。
(令和 4 年)